平成29年８月８日

各　位

会 社 名　アニコム ホールディングス株式会社
代表者名　代表取締役社長　小　森　伸　昭
（コード番号：8715　東証一部）
問合せ先　取締役経営企画部長　亀　井　達　彦
（TEL.　03-5348-3911）

（訂正）「2018年３月期　第１四半期　決算補足説明資料」の一部訂正について

平成29年８月７日に公表いたしました「2018年３月期　第１四半期　決算補足説明資料」の記載内容の一部を修正しましたので、下記のとおり訂正し、訂正後のスライドを添付いたします。

なお、訂正箇所は下線を付して表示しております。

記

【主な訂正箇所】
５ページ「３．2018年３月期　連結決算概況」

（訂正前）５ページ「３．2018年３月期　連結決算概況」

2018年３月期　決算概要

３．2018年３月期　連結決算概況

anicom

（百万円）

	17年３月期 １Q	18年３月期 １Q	対前期 増減率
経常収益	7,043	**7,752**	10.1 %
保険引受収益	6,848	**7,541**	10.1 %
資産運用収益	90	**86**	△ 5.2 %
その他経常収益	104	**124**	19.2 %
経常費用	6,684	**7,474**	11.8 %
保険引受費用	4,739	**5,366**	13.2 %
（正味支払保険金）	(3,575)	**(3,973)**	11.1 %
（損害調査費）	(249)	**(248)**	△ 0.3 %
（諸手数料及び集金費）	(462)	**(623)**	34.9 %
（支払備金繰入額）	(68)	**(115)**	70.1 %
（責任準備金繰入額）	(383)	**(405)**	5.7 %
（うち未経過保険料）	(294)	**(347)**	17.9 %
（うち異常危険準備金）	(88)	**(57)**	△ 35.0 %
資産運用費用	0	**0**	0.0 %
営業費及び一般管理費	1,902	**2,062**	8.4 %
その他経常費用	42	**45**	6.9 %
経常利益	358	**277**	△ 22.6 %
当期純利益	98	**193**	97.0 %

既経過保険料		6,553	**7,193**	9.8 %
発生保険金（損害調査費含む）		3,644	**4,089**	12.2 %
E/I 損害率	①	59.4 %	**60.3 %**	0.9 pt
既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率	②	32.8 %	**35.4 %**	2.6 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｼｵ(既経過保険料ﾍﾞｰｽ)	①＋②	92.2 %	**95.7 %**	3.5 pt

主な勘定科目の内容と増減理由

① 保険引受収益　（詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照）
・保有契約数が前年同期比で8.9%増加。
・新規契約数累計が対前年同期比で14.9%増加。
・継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇も一部寄与。

② 資産運用収益
・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。

③ 正味支払保険金
・保有契約の増加に伴い保険金支払も増加。

④ 損害調査費
・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。

⑤ 諸手数料及び集金費
・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に比例して増加。

⑥ 支払備金繰入額
・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
・支払備金（B/S）期末残高－期首残高で算出。
・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

⑦ 未経過保険料繰入額
・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
・繰入額は期末残高－期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料（≒発生ベースの保険料）となる。

⑧ 異常危険準備金
・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
・通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

（訂正後）５ページ「３．2018年３月期　連結決算概況」

2018年３月期　決算概要

３．2018年３月期　連結決算概況

anicom

（百万円）

	17年３月期 １Q	18年３月期 １Q	対前期 増減率
経常収益	7,043	**7,752**	10.1 %
保険引受収益	6,848	**7,541**	10.1 %
資産運用収益	90	**86**	△ 5.2 %
その他経常収益	104	**124**	19.2 %
経常費用	6,684	**7,474**	11.8 %
保険引受費用	4,739	**5,366**	13.2 %
（正味支払保険金）	(3,575)	**(3,973)**	11.1 %
（損害調査費）	(249)	**(248)**	△ 0.3 %
（諸手数料及び集金費）	(462)	**(623)**	34.9 %
（支払備金繰入額）	(68)	**(115)**	70.1 %
（責任準備金繰入額）	(383)	**(405)**	5.7 %
（うち未経過保険料）	(294)	**(347)**	17.9 %
（うち異常危険準備金）	(88)	**(57)**	△ 35.0 %
資産運用費用	0	**0**	0.0 %
営業費及び一般管理費	1,902	**2,062**	8.4 %
その他経常費用	42	**45**	6.9 %
経常利益	358	**277**	△ 22.6 %
当期純利益	98	**193**	97.0 %

既経過保険料		6,553	**7,193**	9.8 %
発生保険金（損害調査費含む）		3,893	**4,337**	11.4 %
E/I 損害率	①	59.4 %	**60.3 %**	0.9 pt
既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率	②	32.8 %	**35.4 %**	2.6 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｼｵ(既経過保険料ﾍﾞｰｽ)	①＋②	92.2 %	**95.7 %**	3.5 pt

主な勘定科目の内容と増減理由

① 保険引受収益　（詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照）
- 保有契約数が前年同期比で8.9%増加。
- 新規契約数累計が対前年同期比で14.9%増加。
- 継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇も一部寄与。

② 資産運用収益
- 主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。

③ 正味支払保険金
- 保有契約の増加に伴い保険金支払も増加。

④ 損害調査費
- 人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。

⑤ 諸手数料及び集金費
- 主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に比例して増加。

⑥ 支払備金繰入額
- 将来の保険金支払に備えるための繰入額。
- 支払備金（B/S）期末残高－期首残高で算出。
- ③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

⑦ 未経過保険料繰入額
- 収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
- 繰入額は期末残高－期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
- ①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料（≒発生ベースの保険料）となる。

⑧ 異常危険準備金
- 制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
- 一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
- 通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

以上

※　以下、その他の訂正を含む「2018年３月期　第１四半期　決算説明資料」全体を添付いたします。

2018年３月期 第１四半期

決算補足説明資料

2017年８月７日

アニコム ホールディングス株式会社

（証券コード：8715）

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

会社概要

会社名	アニコム ホールディングス株式会社　（ Anicom Holdings,Inc.）
事業内容	損害保険業（ペット保険）、動物病院支援事業 等
所在地	東京都新宿区西新宿８-17-１　住友不動産新宿グランドタワー39階
設立年月日	2000年７月５日
代表者	代表取締役　小森 伸昭
資本金	44億2百万円　（2017年６月末日 現在）
連結従業員数	667名（うち、獣医師 98名。いずれも2017年６月末日 現在。契約社員含む）
グループ会社	アニコム損害保険（株）、アニコム パフェ（株）、アニコム フロンティア（株）、 アニコム先進医療研究所（株）、アニコム キャピタル（株）

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

１．2018年３月期　決算ハイライト

anicom

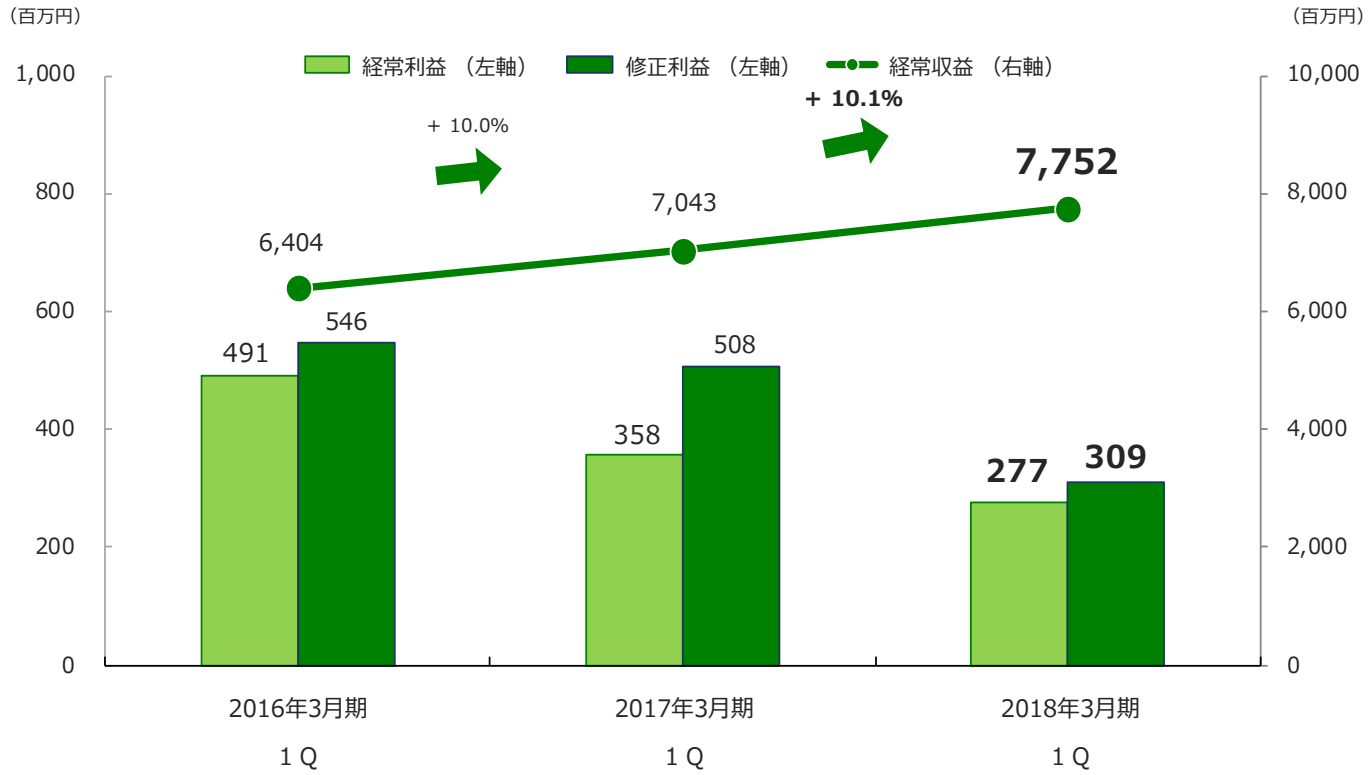
業績	■ 経常収益　：7,752 百万円　（前年同期は 7,043 百万円 **10.1% 増**） （うち、保険引受収益：7,541 百万円　前年同期は 6,848 百万円 10.1 % 増） ■ 経常利益　：　277 百万円　（前年同期は 358 百万円 **22.6% 減**） ・ＮＢ営業の継続的な取組み強化等により、**保有契約数は順調に増加**（前年同期比 8.9%増）。 保険引受収益は、**計画通りの二桁台の増加ペース**を堅持。 ・**損害率は**、加齢に伴う保険金支払増加により**上昇傾向**。 ・**事業費率は**、経費管理の徹底やシステムを中心とした業務改善等を行っている一方、ＮＢ営業強化による代理店手数料の増加や、ペット保険規模拡大に向けた投資等（ＷＥＢ広告強化等）により、対前年同期比で**上昇**。 ・以上の結果、経常利益は**計画通りの着地**。
損害率（※） （E/I）	■ 60.3 %　（前年同期は 59.4 %。**0.9pt 上昇**） ・新規契約の順調な増加により商品ポートフォリオの改善（限度日数あり商品の増加）が進む一方で、加齢に伴う高齢層を中心とした保険金増加により、損害率は**対前年同期比でやや上昇**。（本年7月から８歳以上の保険料値上げを実施）
事業費率（※） (既経過保険料ベース)	■ 35.4 %　（前年同期は 32.8 %。**2.6pt 上昇**） ・ＮＢ営業強化による代理店手数料の増加、一般チャネル拡大のためのWEB広告強化等による販売費及び一般管理費の増加により事業費が増加。これを保険料増収で希釈するも、事業費率は**対前年同期比で上昇**。

※ 損害率と事業費率はいずれもアニコム損保㈱単体

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

２．経常収益・経常利益・修正利益の推移

（注）　修正利益　：ペット保険事業による実質的な損益を表す当社グループ独自の指標。
経常利益±異常危険準備金影響額±保険引受以外の営業費・一般管理費±
資産運用収支±その他収支にて算出。



・ 新規契約獲得数が対前年同期比で14.9%増加するとともに、継続契約獲得数の増加と加齢による保険料単価上昇により着実に増収が継続している。

・ ペット保険事業の実質的な利益を表す修正利益は、営業強化に伴う事業費の増加によって対前年同期で縮小したが、想定どおりの規模で推移している。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

３．2018年３月期　連結決算概況

anicom

（百万円）

	17年３月期 １Ｑ	18年３月期 １Ｑ	対前期 増減率
経常収益	7,043	**7,752**	10.1 %
保険引受収益	6,848	**7,541**	10.1 %
資産運用収益	90	**86**	△ 5.2 %
その他経常収益	104	**124**	19.2 %
経常費用	6,684	**7,474**	11.8 %
保険引受費用	4,739	**5,366**	13.2 %
（正味支払保険金）	(3,575)	**(3,973)**	11.1 %
（損害調査費）	(249)	**(248)**	△ 0.3 %
（諸手数料及び集金費）	(462)	**(623)**	34.9 %
（支払備金繰入額）	(68)	**(115)**	70.1 %
（責任準備金繰入額）	(383)	**(405)**	5.7 %
（うち未経過保険料）	(294)	**(347)**	17.9 %
（うち異常危険準備金）	(88)	**(57)**	△ 35.0 %
資産運用費用	0	**0**	0.0 %
営業費及び一般管理費	1,902	**2,062**	8.4 %
その他経常費用	42	**45**	6.9 %
経常利益	358	**277**	△ 22.6 %
当期純利益	98	**193**	97.0 %

既経過保険料		6,553	**7,193**	9.8 %
発生保険金（損害調査費含む）		3,893	**4,337**	11.4 %
E/I 損害率	①	59.4 %	**60.3 %**	0.9 pt
既経過保険料ﾍﾞｰｽ事業費率	②	32.8 %	**35.4 %**	2.6 pt
ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞ・ﾚｼｵ(既経過保険料ﾍﾞｰｽ)	①＋②	92.2 %	**95.7 %**	3.5 pt

主な勘定科目の内容と増減理由

① 保険引受収益　（詳細は「4.経常収益のパラメータ」参照）

・保有契約数が前年同期比で8.9%増加。
・新規契約数累計が対前年同期比で14.9%増加。
・継続契約数の増加と加齢に伴う保険料単価の上昇も一部寄与。

② 資産運用収益

・主に国内株式・国内REITにより安定的な運用収益を確保。

③ 正味支払保険金

・保有契約の増加に伴い保険金支払も増加。

④ 損害調査費

・人件費をはじめとした保険金査定部門の費用。支払件数に応じて増加。

⑤ 諸手数料及び集金費

・主に代理店に対する手数料。保険引受収益の増加に比例して増加。

⑥ 支払備金繰入額

・将来の保険金支払に備えるための繰入額。
・支払備金（B/S）期末残高－期首残高で算出。
・③正味支払保険金と合算することで、発生保険金となる。

⑦ 未経過保険料繰入額

・収入保険料のうち翌期以降に対応する保険料の繰り延べ。
・繰入額は期末残高－期首残高で算出される。なお、その期における①保険引受収益のおおよそ35%-40%前後が期末残高となる。
・①保険引受収益から未経過保険料繰入額を差し引くと既経過保険料（≒発生ベースの保険料）となる。

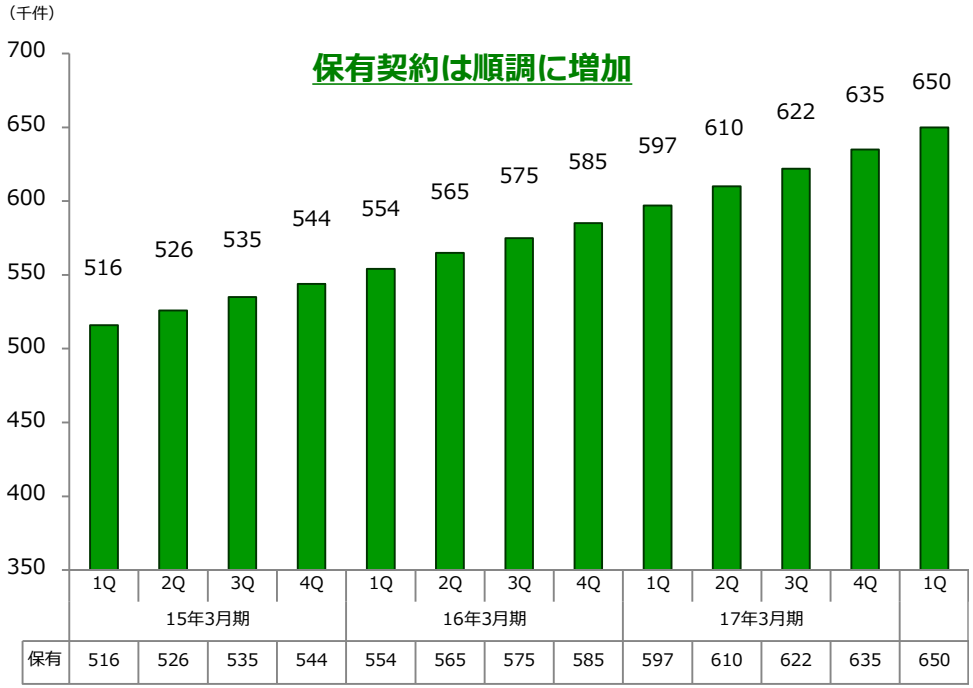
⑧ 異常危険準備金

・制度化された積立であり、収入保険料の3.2%を毎期計上。
・一方、当期首残高を限度額として「正味損害率が50%となる水準」まで取崩すこととなり、繰入額はそのNet金額が計上される。
・通期では、おおよそ「増収分×3.2%」が繰入額として計上される。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

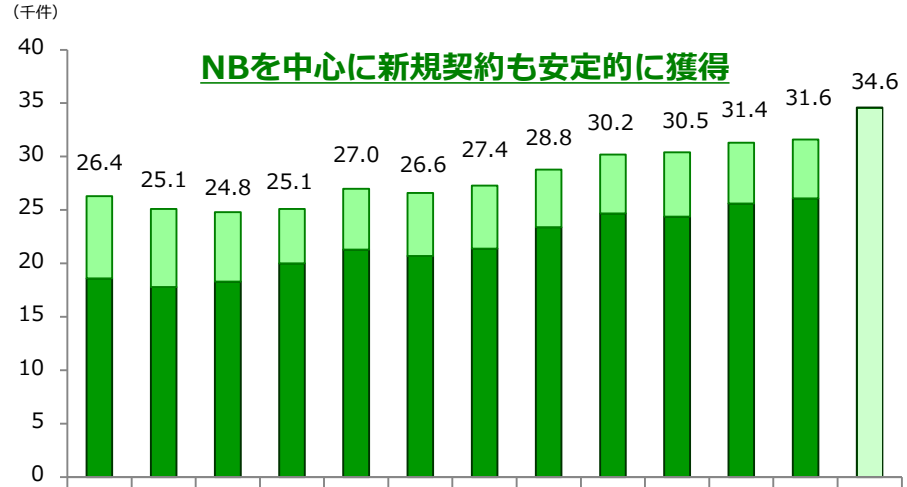
４．経常収益のパラメータ　（ペット保険保有契約数／新規獲得数の推移）

■ 保有契約数の四半期推移



	15年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	16年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	17年3月期 1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
保有	516	526	535	544	554	565	575	585	597	610	622	635	650

■ 新規契約獲得数の四半期推移



	15年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	16年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	17年３月期 1Q	2Q	3Q	4Q	18年３月期 1Q
一般	7.7	7.3	6.5	5.1	5.7	5.9	5.9	5.4	5.5	6.0	5.7	5.5	
NB	18.6	17.8	18.3	20.0	21.3	20.7	21.4	23.4	24.7	24.4	25.6	26.1	
合計	26.4	25.1	24.8	25.1	27.0	26.6	27.4	28.8	30.2	30.5	31.4	31.6	34.6

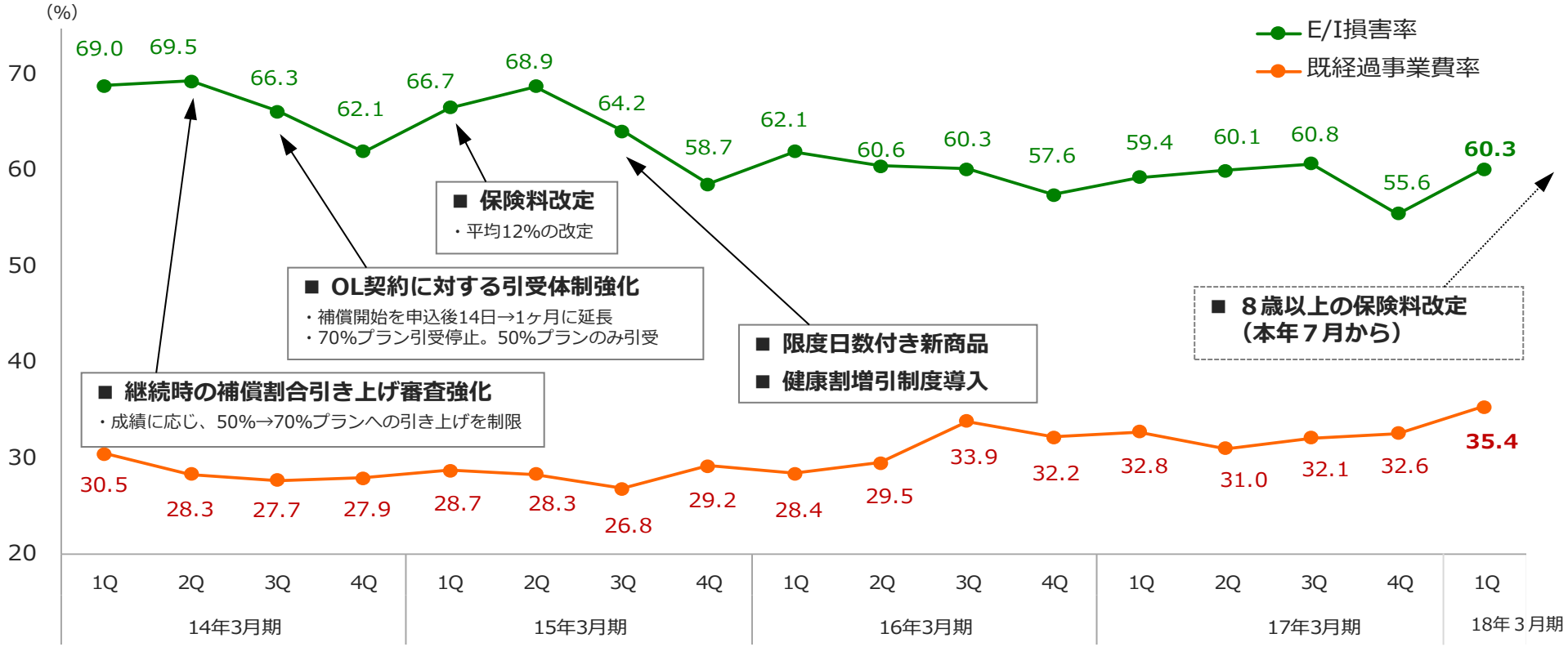
※ NB：ペットショップチャネル

- **新規契約獲得は順調に推移**。
- **既契約の継続率は88%前後で堅調に推移している**。
- 以上の結果、**保有契約数は順調に増加**。
- 50%プランと70%プランの比率は、保有契約全体ではおおよそ60：40で50%プラン割合が多い。一方、新規契約では70%プランが５割超。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

５．経常費用のパラメータ　（損害率（E/I）、既経過保険料ベース事業費率）

注1）　下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
注2）　事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」（損保事業費÷既経過保険料）を表しております。



・**E/I損害率は**、動物病院の繁忙期に応じて1Q・2Qに上昇した後、3Qから4Qにかけて通院頻度が減少することで改善していくといった季節性を有する。当期１Ｑは、料率改定効果が無くなったこと等により損害率は前年対比上昇したが、例年と同様の傾向であり**計画内で推移**。

・**事業費率は**、規模の経済効果に加え経費管理の徹底、システムを中心とした業務改善等を行っている一方、ＮＢ営業強化による代理店手数料の増加やWEB広告強化による販売費及び一般管理費の増加等により**計画よりもやや上振れ**。

・安定した利益計上と新規投資のバランスを図るため、両者を合算した**コンバインド・レシオを中期的には90%程度でコントロールする方針（2017年度は投資フェーズのため上振れを想定）**。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

６．連結貸借対照表　サマリー

（百万円）

	17年３月期	18年３月期 1Q	増減率
資産合計	28,123	**28,428**	1.1 %
現金及び預貯金	15,242	**15,942**	4.6 %
有価証券	5,914	**5,476**	△ 7.4 %
有形固定資産	1,432	**1,408**	△ 1.7 %
無形固定資産	904	**1,185**	31.0 %
その他資産	4,171	**3,965**	△ 4.9 %
繰延税金資産	597	**585**	△ 2.0 %
貸倒引当金	△ 140	**△ 135**	- %
負債合計	15,842	**16,070**	1.4 %
保険契約準備金	12,993	**13,514**	4.0 %
うち支払備金	1,739	**1,855**	6.7 %
うち責任準備金	11,253	**11,659**	3.6 %
その他負債	2,635	**2,415**	△ 8.3 %
賞与引当金	172	**96**	△ 43.7 %
価格変動準備金	41	**43**	5.1 %
純資産合計	12,281	**12,357**	0.6 %
株主資本	12,233	**12,337**	0.8 %
うち資本金	4,402	**4,402**	0.0 %
うち資本剰余金	4,292	**4,292**	0.0 %
うち利益剰余金	3,539	**3,643**	2.9 %
うち自己株式	△ 0	**△ 0**	- %
その他有価証券評価差額金	△ 100	**△ 148**	- %
新株予約権	148	**167**	13.0 %
負債・純資産合計	28,123	**28,428**	1.1 %

主な勘定科目の内容と増減理由

① 有価証券

・ 主に国内株式・国内REIT等にて運用。

② 支払備金

・ 将来の保険金支払に備えて計上される未払金。
すでに請求を受けている①普通支払備金と、保険事故は発生しているものの未だ請求を受けていない②IBNR備金を計上。

・ 基本的に保有契約の増加に伴い保険金請求も増加するため増加傾向。

③ 責任準備金

・ 未経過保険料である①普通責任準備金（10,701百万円）と、異常災害に備えて引き当てる②異常危険準備金（957百万円）を計上。

・ 普通責任準備金は保有契約の増加に伴い増加する傾向であり、当該期における正味収入保険料のおおよそ35%～40%前後が残高として計上される傾向。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

７．連結キャッシュ・フロー　サマリー

（百万円）

	17年３月期 １Ｑ	**18年３月期 １Ｑ**
営業活動によるキャッシュ・フロー	430	**716**
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,441	**△ 126**
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 86	**△ 90**
現金及び現金同等物の増減額	1,785	**499**
現金及び現金同等物の期首残高	6,106	**13,492**
現金及び現金同等物の期末残高	7,892	**13,992**

・保有契約の順調な増加により、安定した営業キャッシュ・フローを計上。
・運用資産への投資を進める一方で売却による回収も実行し、投資キャッシュ・フローをコントロール。
・財務キャッシュ・フローは剰余金の配当による支出。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

APPENDIX

1．グループ概要

2．アニコム損保事業

3．ほかグループ会社事業

4．その他サービス

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

1．グループ概要

01 グループ全体像

アニコム ホールディングス㈱

■ **子会社の経営管理事業**

資本金：4,402百万円
設立　：2000年７月

- アニコム 損害保険㈱
- アニコム フロンティア㈱
- アニコム パフェ㈱
- アニコム 先進医療研究所㈱
- アニコム キャピタル㈱

■ **損害保険業（ペット保険）**

資本金：5,050百万円
設立　：2006年１月

■ **保険代理店業**

資本金：　30百万円
設立　：2005年２月

■ **動物病院支援事業**

資本金：　380百万円
設立　：2004年12月

■ **動物医療の臨床・研究事業**

資本金：　300百万円
設立　：2014年１月

■ **ベンチャー・キャピタル事業**

資本金：　50百万円
設立　：2015年７月

02 グループ沿革

2000年 ４月	任意組合として anicom（どうぶつ健康促進クラブ） 設立
2000年 ７月	anicomから「どうぶつ健保」事務受託会社として㈱ビーエスピー設立 （2005年１月にアニコム インターナショナル㈱に、2008年６月にアニコム ホールディングス㈱に、それぞれ商号変更）
2004年12月	アニコム パフェ㈱設立
2005年 ２月	アニコム フロンティア㈱設立
2006年 １月	保険会社設立準備のため、アニコムインシュランスプランニング㈱設立 （2007年12月にアニコム損害保険㈱に商号変更）
2007年12月	アニコム損害保険㈱が損害保険業免許を取得 アニコム インターナショナル㈱が保険持株会社としての認可取得
2008年 １月	アニコム損保㈱がペット保険の販売を開始
2008年 ４月	アニコム損保㈱がペット保険の補償を開始
2009年11月	「家庭どうぶつ白書」発刊（以降、毎年発刊）
2010年 ３月	アニコム ホールディングス㈱が東証マザーズ上場（証券コード：8715）
2014年 １月	日本どうぶつ先進医療研究所㈱（現「アニコム先進医療研究所㈱」）設立
2014年 ６月	アニコム ホールディングス㈱が東証一部に市場変更
2015年 ７月	アニコム キャピタル㈱設立
2016年 ４月	当社49%、富士フイルム㈱51%出資の動物の再生医療に関する合弁事業として、セルトラスト・アニマル・セラピューティクス㈱を設立

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved

anicom

01 主要経営パラメーター

	① 17年３月期 １Ｑ	② 17年３月期末	③ 18年３月期 １Ｑ	③－① 前年同期比		③－② 対前期末		18年３月期末 （５月９日予想）
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	597,243 件	635,670 件	650,550 件	53,307 件	8.9 %	14,880 件	2.3 %	690,000 件
② 新規契約数	30,181 件	123,849 件	34,667 件	4,486 件	14.9 %	-	-	149,000 件
③ 継続率	87.9 %	88.2 %	88.1 %	-	0.2 pt	-	-	88.1 %
④ 保険金支払件数	680 千件	2,823 千件	723 千件	43 千件	6.4 %	-	-	2,988 千件
⑤ 対応動物病院数	6,001 病院	6,083 病院	6,116 病院	115 病院	1.9 %	33 病院	0.5 %	6,200 病院

	17年３月期 １Ｑ	18年３月期 １Ｑ	対前年同期増減	18年３月期 （５月９日予想）
⑥ E/I 損害率	59.4 %	60.3 %	0.9 Pt 上昇	59.3 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	32.8 %	35.4 %	2.6 Pt 上昇	32.9 %
⑧ コンバインド・レシオ （既経過保険料ベース）	92.2 %	95.7 %	3.5 Pt 上昇	92.2 %

	17年３月期末	18年３月期 １Ｑ	対前期末増減	18年３月期 （５月９日予想）
⑨ 単体ソルベンシー･マージン比率	295.6 %	295.2 %	△ 0.4 pt	310 %前後

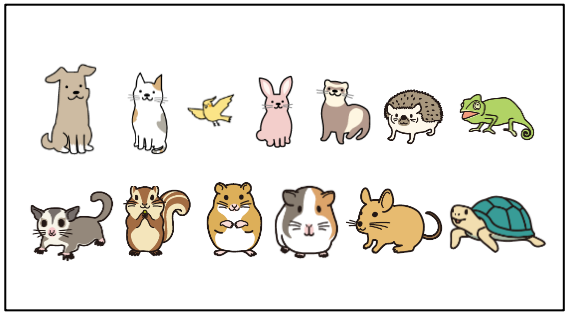
Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

02 当社ペット保険の特徴とトピックス

① ペットの健康保険

どうぶつのケガ・病気に対し、保険対象となる診療費の70%または50%を、支払限度額の範囲内で保険金としてお支払いします。（死亡補償ではありません）

② 最多種のペットを引受け



犬と猫はもちろん、2016年11月からは全13種のどうぶつ種が対象となっています。犬猫の新規加入は、８歳未満まで。2017年8月からは、鳥・うさぎ・フェレットも４歳未満まで新規加入が可能となりました。

③ 獣医師を始め、多くの専門家が在籍

多くの獣医師や、医師、薬剤師、弁護士などの専門家が在籍するアニコムでは、予防情報の発信はもちろん、専門知識を生かした保険金査定、監査・モニタリングを行っています。

④ しつけ教室、健康相談会等を実施

ニーズの高い「しつけ教室」や「どうぶつ健康相談会」を対面形式で契約者向けに実施。反響や効果を確認しつつ、順次拡大予定。

NEW！

⑤ LINEを活用した独自サービスを開始

2017年5月17日から、コミュニケーションアプリ「LINE」を活用した保険金請求サービスを開始。また、6月13日からは、アニコムの獣医師に直接相談できる「どうぶつホットライン」を開設しました。

NEW！

⑥ ㈱ ベネッセコーポレーションと提携

2017年5月23日に、雑誌「いぬのきもち」「ねこのきもち」におけるペット保険の販売を含む、ペットオーナー様向けのサービス強化を行っていくための業務提携開始を公表しました。

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

03 最大の競争優位性（アニコム損保）

窓口精算の確立

※ 動物病院が一時的に負担した保険金（上図の場合 7,000円）は、月末にアニコムからまとめて動物病院へお支払します。

① 高い顧客利便性

ひとの国民健康保険と同様、窓口で保険証を提示すれば、自己負担分を支払うだけで済む保険の仕組み「窓口精算システム」を、日本で初めて構築。少額かつ高頻度に利用されるペット医療の特性に合わせ、保険の使いやすさを重視したこのビジネスモデルがアニコム損保の最大の強みです。

② 圧倒的な対応病院数

開業当初から拡大に取り組んできた「アニコム対応病院」は、6,100病院（全国病院の５割以上）を超え、その数には他社と圧倒的な差があります。また、獣医師が新しく病院を開業する際にも、広く普及している保険会社との提携が第一選択されやすく、高い競争優位性を誇っています。

③ 事務コストの低さ

契約者が郵送で保険会社に請求する従来型のビジネスモデルでは、一件ごとに振込手数料、郵送費、査定等の事務コストがかかりますが、窓口精算システムにより、これらを大幅に圧縮。
年間280万件の保険金請求のうち９割近くが窓口精算による請求であり、高い業務効率を達成しています。

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

anicom

アニコムグループの新規事業戦略

「中期経営計画2019」より抜粋

「予防型保険会社」の実現を目指すべく、アニコムグループ新規事業の経営戦略である
「ペットの生涯すべてと接するインフラビジネス」を構築するため、下記の事業・研究を順次展開中。

川上 → **川中** → **川下**

遺伝子

・疾患関連遺伝子の解析、新規発見

交配・出産

・遺伝病フリーに向けたブリーディング支援
・多産や健康に関わる遺伝子の解明

ペットショップ

・遺伝病フリーのペット流通支援
・「遺伝子情報証明書」の発行
・遺伝学に基づくブリーディングのブランド化

健康診断

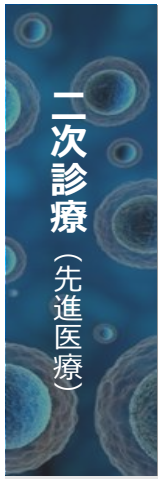
・共生細菌（腸内等）検査で、健康診断

日々の暮らし

・予防フードの開発、販売
・生活習慣改善による予防啓発

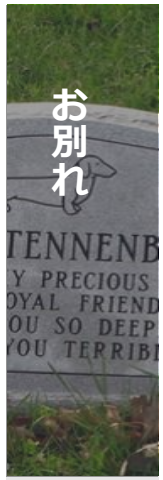
一次診療（一般医療）

・データを活用した次世代予防法の確立
・標準診療ガイドライン等の策定
・健診→診療の適切なエスカレーション



二次診療（先進医療）

・再生医療等の先進医療の提供



お別れ

・亡くなった後の霊園紹介サービス

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

3．ほかグループ会社事業

「中期経営計画2019」より抜粋

【川上】ペットの遺伝病は、無くせる。

人間にとってかけがえのない使役動物（パートナー）として、それぞれのフィールドに合わせて進化してきた犬種の歴史がある一方、病的な遺伝子も色濃く受け継がれることがあります。人では遺伝病の対策は困難を極めますが、ペットの遺伝病は、ブリーディング等により撲滅できる可能性があります。

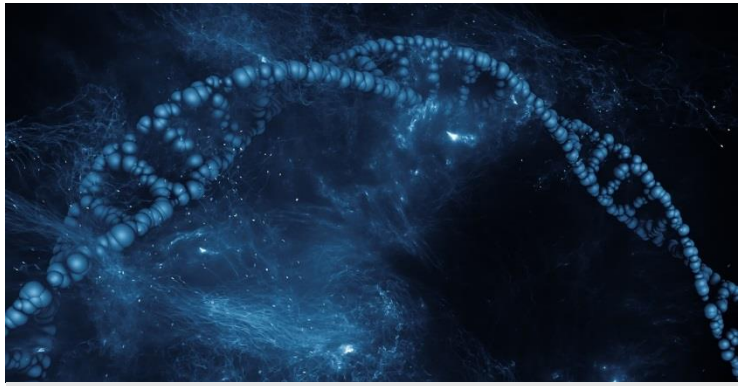
geco genetic cooperation

(遺伝病プロジェクトロゴ)

01 遺伝病フリーのブリーディング支援

例えば、変性性脊髄症（DM）という病気は、ウェルシュ・コーギーに多く発生する遺伝病で、一度発症してしまうと治癒できず、1年半ほどで死に至る場合が多くなっています。しかし、個体によっては、この遺伝子異常を持たないもの（クリア個体）もいます。ブリーディングの際に、このクリア同士を掛け合わせれば、理論上DMは撲滅することができます。こうしたブリーディングサポートを行うことで、遺伝病のない健康な犬猫の流通を促すとともに、疾患に関連する未知なる遺伝子の解明を目指し、遺伝病に苦しむどうぶつを減らしていきます。

02 遺伝子検査等事業の展開



アニコム先進医療研究所㈱では、疾患関連遺伝子に関する研究を進めており、一定の解析技術を確立しています。今後、さらに研究の幅と深度を深め、新規遺伝病の発見や独自の検査技術の開発を進めるとともに、これらの検査の事業化を見据えております。検査だけでなく、治療の研究も併せて進めることで、遺伝病の素因を持っていても安心できる環境の創出（遺伝病発症リスクの排除）を目指します。また、どうぶつの遺伝子関連事業をブランド化し、遺伝病撲滅に向けた啓発を行っていきます。

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

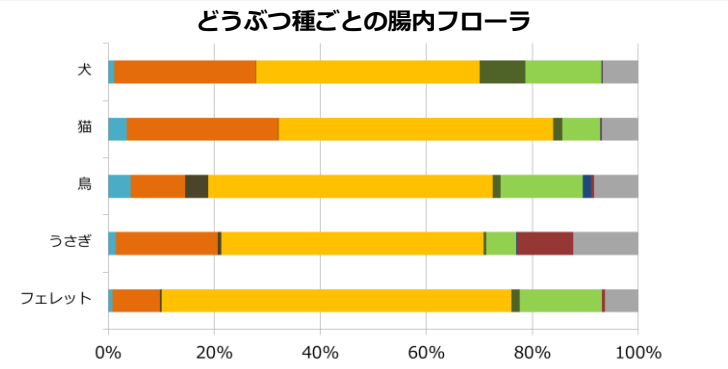
3．ほかグループ会社事業

「中期経営計画2019」より抜粋

【川中】無限の可能性を秘める細菌達との、より良い共生を

近年、その可能性の高さから世界中の研究者たちが関心を集める腸内細菌等の共生細菌。アニコムでは、2016年からどうぶつに関する研究をスタートし、既に１万検体を超える膨大な検査データを有しています。このデータを基に事業化を進め、どうぶつの健康寿命延伸を目指します。

01 豊富な研究実績



2016年からアニコムが開始したどうぶつの共生細菌（腸内等）検査は、既に1万検体を超えます。アニコムの研究では、どうぶつ種ごとに特徴的な腸内細菌叢（腸内フローラ）があることがわかりました。また、共生細菌の検査結果を保険金請求データやどうぶつkokusei調査（生活習慣に関する当社独自調査）と照合することで、一部の疾病や生活習慣との関係も明らかになりつつあり、今後論文等での発表を行っていきます。既に実施している保険契約者向けの腸内細菌検査（腸活）を契約者以外にも拡大し、事業化を目指します。

02 共生細菌をキーにした各種事業の展開

01に示す研究結果を基にした各種事業やサービスの展開を目指しています。例えば、共生細菌と密接に関係する食事や飲料について研究を進め、どうぶつ種ごとの最適な食事や生活習慣を明らかにすることで独自または共同でペットフードやサプリメントの開発などを目指します。
共生細菌をキーとしたこうした保険以外の事業を展開することにより収益増加を目指すとともに、発症予防、重症化予防による保険金の削減を実現します。

Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

3．ほかグループ会社事業

「中期経営計画2019」より抜粋

【川下】1,500万件を超えるどうぶつ医療データを「予防」に

のべ1,500万件を超える保険金請求データを中心に、どうぶつkokusei調査やアニコムレセプター（動物病院向けカルテ管理システム）などのビッグデータを有する当社では、これらの財産を生かし、次世代予防法の確立を目指すとともに、保険金の削減に繋げていきます。

01 国内最大規模の獣医療統計冊子

2009年から無料で公開している「家庭どうぶつ白書」では、保険金支払実績に基づいたどうぶつの疾患統計や、家庭どうぶつの健康管理の参考として頂けるデータ等、様々な角度から分析を行っています。国内最大規模のこの疫学データは、獣医学会や論文をはじめ、雑誌や新聞記事などで活用されており、幅広い視点から獣医療・ペット産業の発展へと貢献しています。

02 AIの活用で次世代予防法の確立を

保険金請求データだけでなく 、どうぶつkokusei調査やアニコムレセプター（動物病院向けカルテ管理システム）、遺伝子や共生細菌の検査結果など多種多様かつ膨大なデータを相互に生かし、次世代の予防法開発に取り組んでいます。
これらを人為的に解析することはもちろん、ディープラーニング（深層学習型人工知能）を活用し、疾病発生前の病気予報など、私たちにしかできない次世代予防法の確立に繋げていきます。

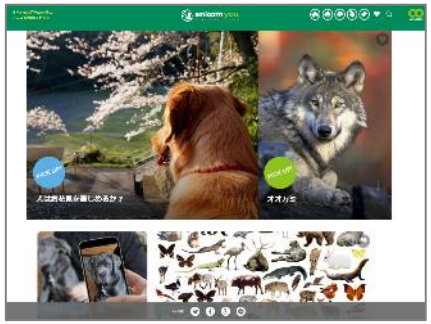
Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

4．その他サービス

※WEB環境の場合は、画像をクリックしてHPにジャンプできます。

01 anicom you

ペットの予防情報や豆知識、珍しい動物や絶滅危惧種などの情報を配信するWEBマガジン。



02 ハローベいびぃ

全国のペットショップで販売されている生体の情報を配信するマッチング支援サイト。

03 STOP熱中症

犬の熱中症を減らすための予防啓発プロジェクト。他にSTOP誤飲プロジェクトなども展開。

04 ミニまるPLANET

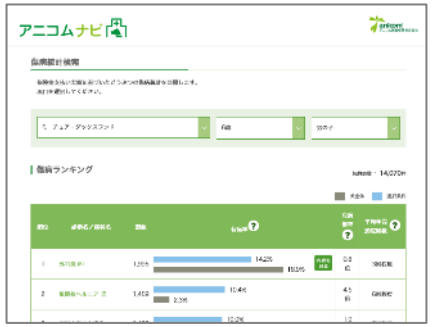
犬猫以外のエキゾチックアニマルに関する情報を配信するWEBマガジン。

05 どうぶつライフサポート

提携のドッグカフェやホテルなどで保険契約者が優待を受けられるサービス。

06 アニコムナビ

品種や年齢、性別ごとに、どのような病気になりやすいかを視覚的に表示し、予防の啓発に。



Anicom Holdings,Inc. All Rights Reserved

本資料に関する注意事項

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社　経営企画部

東京都新宿区西新宿８-17-１　住友不動産新宿グランドタワー39階

URL：http://www.anicom.co.jp/

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。
これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包して　おります。
従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。
なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり
当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではございません。

Anicom Holdings,Inc.　All Rights Reserved